

炭化し、ガス化炉で水
性ガス化反応を起こさ
性ガス
せて、水素約60%、一酸化
炭素25%の生成ガス（水
力増強なども検討して
いく。

木質バイオマスから水素供給

建廃などの産廃処理
が主力で、アスベスト
除去・内装（解体）工
事・建築設計など事業
の多角展開を進める新
和環境（東京・新宿、
梁川哲社長、☎03・
3208・5845）

再エネセンター竣工



吉川再生可能エネルギーセンターの全景

今回の設備は実証と
実稼働を兼ねたもの
で、含水率15%の木質
チップの場合、1日24
時間稼働で9・5トンの
原料取扱量となる。今
年11月末までをめどに
各種実験やデータ取り
を行い、12月からの実
稼働を目指す。年間3
30日稼働で、生木換
算で5000トンの強の木
質チップの有効利用が
可能で、実稼働後は能

センターでは出力2
70キロワットのドイツ製ガ
スエンジン方式の発電
施設を設置し、得られ
た水素ガスを発電用
に利用するが、水素や一
酸化炭素は各産業界
での需要も多く、発電
用やそれらのガス生成機
器として事業者・森林組
合などへの技術供与や
共同事業化も進めてい
く意向だ。

（再生可能エネルギー
・電気・熱自律的普及
促進事業）の補助を得
ている。土地代を除く
総工費のうち約3分の
1を国庫補助で対応で
きた。設備関係は特許
技術で、出願を含め
て国内14件・国際2件
に及んでいる。

梁川社長は「木質バ

イオマスからの水素供
給設備は、当社に限ら
ず技術供与先などに
よる地域の再生エネルギ
ー供給の拠点になり得
るものだ。まずは木質
で発電やケミカルリサ
イクルの技術・事業基
盤を築きたい。木質チ
ップリサイクルの高付
加価値化が最重要課題
だ」と語っている。

施設設置では、20
18、19年度の2カ年
で経済産業省と環境省
から、二酸化炭素排出
抑制対策事業費補助金

建廃などの産廃処理が
主力で、アスベスト除
去・内装（解体）工事
・建築設計など事業の
多角展開を進める新和
環境（東京・新宿、梁
川哲社長、☎03・3208
・5845）

は先月、埼玉県吉川市
の自社中間処理施設の
隣接地に、木質バイオ
マスからの水素供給設
備「吉川再生可能エネ
ルギーセンター」を竣
工した。

建廃・産廃系や生木
材由来の木質廃材を